

令和7年度の学校経営について

立川市立新生小学校

校長 千葉 貴樹

1 学校経営のキーセンテンス

「見つめ 気づき かかわって つなげる」学校経営の推進

◆教職員も子どもも、それぞれの立場で実態を把握する中で、課題や取り組む内容を焦点化し、組織を生かして、子どもであれば友達と関わり合いながら、確実に PDCA サイクルを回して、解決・達成・改善・向上・自信に、つまり確かな成果に確実につなげる学校経営を行います。

2 目指す学校像 ―ネットワーク型学校経営の推進―

夢と希望と笑顔があふれる新生小学校

―今日が楽しく 明日が待ち遠しい学校づくり―

- ◆子どもたちだけではなく、地域・保護者の方も教職員も、夢が意識できれば、希望がもてて、自然と笑顔が増え、そしてさらに素敵な夢が見られ・・・そのような学校にしていきます。
- ◆そのためには、子どもたちが「自分で・自分から・自分たちで」取り組む中で、「分かった・できた・頑張れた・関われた」と実感する、つまり「今日が楽しく」、さらに、「明日は、これを頑張りたい」と明日のめあてと意欲をもつ、つまり「明日が待ち遠しい」と実感する、そういったことが毎日繰り返される学校を目指していきます。
- ◆保護者にとっても、子どもが家に帰って学校の様子を楽しそうに話せば、保護者も楽しくなり、明日も新生小に通わせたいと思えるようにしていきます。
- ◆教職員にとっても、子どもたちが一生懸命に取り組んでいる様子を見れば楽しくなり、明日はこんなことにも挑戦させたいと新たな目標がもてれば明日が待ち遠しくなります。
- ◆これらのことは地域にも言えること。地域で元気に笑顔で楽しそうに学校に通う子どもたちを見て、我が町（新生小）で育てたいと願う・・・そのような学校を目指していきます。

3 子どもたちの状況に即した学力向上策の推進（今年度重点）と豊かな心の育成

○4つの課題解決力と2つの社会参画力の向上

※「課題解決力」については、令和5年度学校だより 10・11・3 号参照(HP)

・「比較関連付け力」が重点 ・子どもたちに委ねる学びや授業の創造

○ICTの活用の推進

・デジタル教科書 ・協働学習支援ツール ・デジタルドリル活用と家庭学習

○学力確認テストの実施・活用 ・保護者とのコミュニケーションツール

○自分で自分から自分たちで活動する立川市民科と学級会活動の充実

○自己有用感を高める力と8つの「ゆたかな心」の向上

(ほめる・励ます・声をかけ相談する・協力する・謝る・感謝する・見守る・許す)

4 チーム新生小として、一体となって推進する組織体制の整備・強化

○学校評価を活かし、目的と方針に即した提案型の学校経営の推進

※「学校評価」については、令和6年度学校だより特別号参照(HP)

○教職員一人一人のセンス・発想力・創造力の発揮

○会議・業務の精選と重点化・焦点化の推進

5 地域と共に歩む学校づくりの推進

- ◆学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもたちを、「共に育てる」(共育)ことを通して、子どもたちだけではなく、我々教職員も、そして保護者・地域の方も「共に育っていける」(共育)ように、学校・家庭・地域が協働し、「共育」の点となる、地域に根ざした学校づくりを目指します。
- ◆学校・家庭・地域が共通認識の下、保護者・地域と双方向の関係を重視し、信頼される学校づくりを目指します。

(1)「共育」の拠点となる、地域に根ざした学校づくりの推進

○続新しい形の学校行事の推進 ※令和5年度学校だより3号参照(HP)

○学校・家庭・地域が連携・協働した取組の推進

(2) 保護者・地域と双方向の関係を重視し、信頼される学校づくりの推進

○ICTを活用した教育活動の広報の充実・学校だより等

○相手の思い・願いや立場を踏まえて親身になった対応